

は じ め に

このたび、平成16年度の衛生環境研究センターの業績を福井県衛生環境研究センター年報（第3集）としてとりまとめることができました。多くの方々が、ご高覧いただき、そして、ご意見やご指導をいただければ幸甚です。

平成16年度は、福井豪雨により足羽川が氾濫するという大きな災害に見舞われ、被災された住民の方々や地区に対しての保健衛生・環境の分野での種々の活動、取組がなされ、その一環として当センターも病原微生物、粉じん、重金属などの調査を実施しました。その結果、病原微生物や重金属では不検出や土壌含有量基準を超えるところはなく、住民不安の解消に有用だったとの評価をいただきました。また、粉じんでは、環境基準を上回る地点も見つかり、記者発表を行い、作業時の防御への対応の徹底を図るなど、当センターとしても地域の中での役割を果たしたのではないかと思います。また、何時何が起きるか予測できない災害などを含めての健康被害に即応できる組織体制の課題の事後検証も行き、今後への教訓としました。これらの地道な活動が、感染症のアウトブレイクなどの健康被害の危機管理に生かされるものと思っています。

当センターは、組織の理念として、「地域の保健衛生の向上や環境保全を推進し、活力とやすらぎのある県民生活の実現と豊かで美しいふるさと福井の環境の保全と創造をはかり、すこやかな生活と快適環境の創造の実現」を目指して業務に取り組んでまいりました。

特に、地域の課題の掘り起こしに努め、その課題の解決に向けて取り組んでまいりました。それぞれの課題をより具体的に検討するために、「衛生環境研究センター研究課題検討連絡調整会議」が設置されて、活発な議論が展開されました。その一つとして、「ノロウイルス検査迅速化等のための基礎的研究」を実施し、一定の成果を上げたのではないかと考えています。

今後も、このような行政ニーズの研究課題への反映や地域における課題の発掘に意を注ぎたいと考えております。

当センターが、本県における保健衛生や環境保全などの技術的な中核機関として、その機能を遺憾なく発揮するためには、多くの課題が山積しています。それらの課題を解きほぐして解決の方策を提示していくためには、調査研究の推進や試験検査の技術的水準の維持向上、保健情報の収集・解析と効果的な発信に努めながら、最大の課題と考えている次世代への技術の円滑な継承に取り組んで生きたいと考えています。

今後とも関係機関との連携を深めながら組織目標の達成に努めてまいりたいと思いますので、関係各位のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成17年12月

福井県衛生環境研究センター

所 長 和 田 七 郎 兵 衛